

■児童・生徒の学力の状況

○今年度の「全国学力・学習状況調査」の結果から、全国平均と比較すると、平均正答率で国語で4ポイント、数学で8ポイント、英語(IRTスコア)で4.1ポイント上回っており、日々の取組が基礎学力の定着に結び付いていることが分かる。

○定期テストや到達度テストの状況から、事実的な知識を問う問題の正答率が高いが、論理的に考えて説明する概念的な知識の正答率は低い。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○教科書などの資料から読み取ったことを文章にまとめる時間が、十分に確保できていない。

○生徒同士で、授業中にお互いの考えを伝え合う時間が、以前より改善が見られるものの、まだ十分であるとは言えない。

○生徒が主体的に学習に取り組むことができる授業づくりを展開するにあたり、教員の教材研究の時間が十分に確保できていない。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○生徒が互いにに関わり合い、他者と協働し探究する活動が中心となるような授業革新を進めていく。

○生徒が「学ぶ喜び」を実感し、自ら学び続けることができる持続可能な授業づくりを進めていく。

○各教科での粘り強い反復学習等を通じて「基礎的読解力」を育成し、確かな学力の定着を目指していく。

■確かな学力の育成に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底、及び 板橋区授業スタンダードSの取組	視点2 ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現	視点3 総合的な学習の時間との連携
○定期的に校内研修会を行い、授業を参観する機会を増やす。「学習課題・めあての設定→自力解決→集団解決→まとめ・振り返り」の流れを全教員で徹底しつつ、自己調整の場面を取り入れた授業を展開する。	○話し合い活動などの場面で一人一台端末の積極的な活用を意識した授業展開を心がけ、その場でGIGAスクール推進支援員などの外部人材に適宜入ってもらうことで、さらに深い学びを実現していく。	○「SDGs」及び「郷土愛」を全校共通の視点として、日々の各教科等での取組を校外学習などの事前・事後学習と結び付けて探究的な活動を行うことができるようにする。

■MIRAI SCHOOL いたばし-教育ビジョン2035- -アクションプラン2028-の実現に向けた具体的な取組

保幼小接続・小中一貫教育の推進	豊かな心と健やかな体の育成	多様な教育的ニーズへの対応
○7学年は小学校の頃から取り組んできた「環境教育」の視点から、移動教室を通して自然とふれあい、学びを深める。	○学年の10名の教員がそれぞれの経験をもとに題材を設定して行う「ローテーション道徳」を通して生徒に多種多様な道徳的価値観を学ばせ、豊かな心を育むことを目指していく。	○長期休業中の課題として「すららドリル」に取り組ませることで、生徒の一人一台端末を有効に活用し、個別最適な学びの実現や、基礎学力の定着を目指す。
○8学年は小学校の頃から取り組んできた「キャリア教育」の視点から、職場体験学習を通じて生涯にわたる学びの循環へと繋がる取組を行う。	○日々の体育科の授業、運動会、球技大会などの体育的行事を通して、健やかな体の育成を目指していく。	○日々の授業の話し合い活動の場面で「FigJam」などを活用することで、より効果的な協働的な学びの実現をめざす。
○9学年は小学校の頃から取り組んでいた「郷土学習」の視点から修学旅行を通して日本の伝統と文化を愛する心を学ぶ取組を行う。	○給食指導などの「食育」、基本的な生活習慣を心がけさせることを通して豊かな心と健やかな体づくりにつなげていく。	